

日本側拠点機関名	東北大学
日本側コーディネーター所属・氏名	東北大学大学院薬学研究科・岩淵好治
研究交流課題名	アジア有機化学最先端研究拠点
相手国及び拠点機関名	中国・上海有機化学研究所 韓国・ソウル大学、台湾・国立清華大学 シンガポール・南洋理工大学 タイ・ジュラポン研究所、マレーシア・マラヤ大学

### 研究交流計画の目標・概要

**【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。**

有機化学は、物質、生命、医療、環境、エネルギーから材料科学まで、広範な学術領域に本質的に関与する基礎学問であり、医薬・農薬、食品、化学、電子・電気、自動車工業など世界の基幹産業に密着して人類と現代文明の発展を支えてきた。有機化学を基盤とする学術領域は、歴史的にはヨーロッパ・北米に勃興し、その発展を先導する指導的人材育成の拠点は欧米の研究機関を中心に形成され、我が国を始めとするアジア諸国は欧米に追随するかたちで学術環境を整備・拡充させてきた。近年、化学産業のグローバル化が進み、特にアジア地域での経済交流が活性化し、アジア諸国の経済成長と学術環境の急速な発展を促してきた。一方、資源・エネルギー、食糧、環境、新興・再興感染症の抑止等、世界的規模で喫緊の対策が求められる諸問題が顕在化し、その解決のため化学には一層の力量向上が求められている。発展著しいアジア諸国に日本が10年かけて形成したフェアなパートナーシップに基づく学術交流ネットワークを基盤として次世代の有機化学を先導する人材育成に資する研究拠点を創生することは、アジア地域のみならず人類の持続的な発展に貢献する事業と位置付けられる。本申請事業は、日本学術振興会アジア研究教育拠点事業(Asian Core Program)において、日本を中心とした、中国、韓国、台湾、シンガポール、タイ、マレーシアの7カ国拠点からなる研究交流基盤を活用し、産業界と連携を図りつつ次世代を担うアジア若手研究者を育成するための研究交流プログラムを実施して、アジア発の知の創出を先導する世界的有機化学研究拠点の形成を目指すものである。

**【研究交流計画の概要】 ①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。**

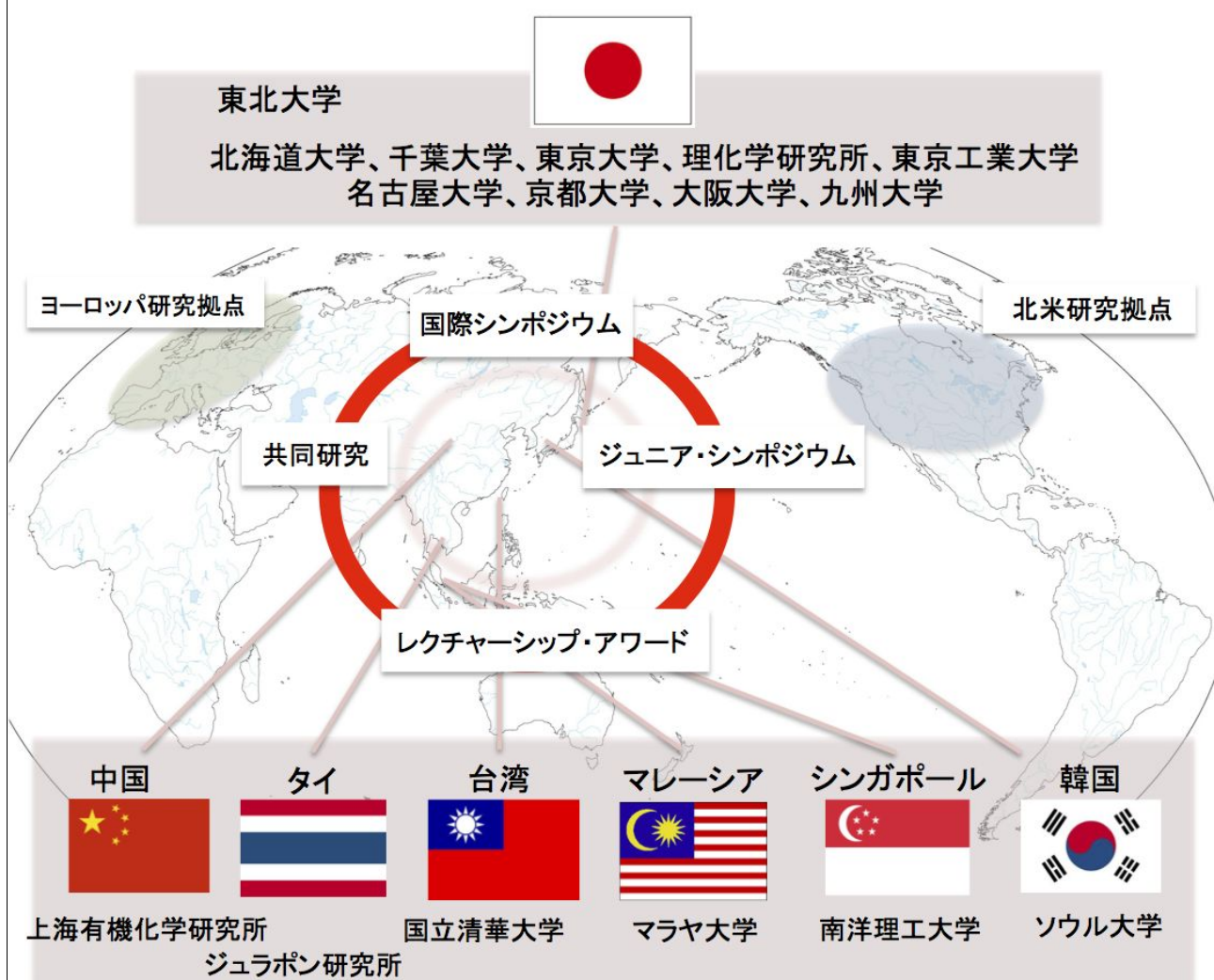
日本学術振興会アジア研究教育拠点事業(Asian Core Program)において構築したアジア7カ国の連携を基盤として、有機化学における最先端研究と次世代を担う若手研究者の育成に資する国際的学術交流プログラムを策定・実施する。具体的には、7カ国拠点の研究者を中心とした国際シンポジウムの毎年開催を機軸として、①共同研究、②セミナー、③研究者交流を密に連動させた事業を戦略的に展開し、アジアの地域性と多様性を活かした有機化学の最先端研究拠点の形成を目指す。

- ・各国拠点コーディネーターにより推薦された気鋭の研究者を招聘して国際シンポジウムを開催し、最新の研究成果を交換する。ここで最先端有機化学が解決すべき諸問題と方略を顕在化させて、効果的な情報交換を行う機会を提供して、共同研究のマッチングを促進する。
- ・上述した国際シンポジウムにおいて、特に優れた研究発表を行った若手研究者に対してレクチャーシップ・アワードを与えて顕彰する。受賞者には、授賞国において1週間の講演旅行の機会を与えて、各国の協力拠点大学・研究機関においてセミナーを行い、最新の情報交換と研究交流を行う。
- ・国際シンポジウムに先行して、大学院生・博士研究員を対象とした「ジュニア・シンポジウム」を開催する。優れた研究発表を行った大学院生を顕彰し、受賞者を国際会議に招待して世界的な研究者と交流する機会を提供する。
- ・歴代のジュニア・シンポジウムの受賞者の中から、注目すべき成果を挙げつつある研究者を選抜して「ジュニア・シンポジウム」に特別講演者として招待する。特に優れた研究発表を行った若手研究者を国際シンポジウムに招聘し顕彰して、若手研究者にキャリア・パスを明示する。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時まで構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

## アジア有機化学 最先端研究拠点

ヨーロッパ、北米に並ぶ**第3の有機化学最先端研究拠点**をアジアに創生  
次世代を担う若手研究者の育成に貢献



- ・東北大学を責任拠点として、Asian Core Program で形成した日本、中国、韓国、台湾、タイ、シンガポール、マレーシア拠点との国際協力ネットワークを戦略的に活用し、アジア発の知の生産を先導する世界的有機化学研究拠点を創生する。
- ・国際シンポジウム、ジュニア・シンポジウム、レクチャーシップ・アワード、共同研究を中核事業として、7カ国研究者の研究交流を相互協力のもとに推進して、次世代の先導的研究者を育成する仕組みをつくる。